

令和 7 (2025) 年 1 1 月 6 日
総 合 教 育 会 議
教育総務課・学校教育課

第3回統合説明会 [令和 7 (2025) 年 8 月 30 日] 概要報告

1 日 時 令和 7 (2025) 年 8 月 30 日 (土) 午後 7 時～午後 8 時 5 分

2 会 場 北条小学校 2 階交流 (北条) ホール

3 出 席 者

- (1) 参 加 者 29名
- (2) 事 務 局 6名 田中教育部長、細山教育総務課長、山之内学校教育課長、種岡学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、茨城教育総務課係長
- (3) 報 道 2名 新潟日報、柏崎日報

4 会 議 概 要 進行 布施課長代理

- (1) 開会あいさつ 田中教育部長
- (2) 「柏崎市立北条中学校の統合時期に関するアンケート調査」の結果報告
細山教育総務課長
- (3) 質疑、意見交換 下記のとおり

発 言 者

発 言 概 要

保護者 : 統合に関する最終的な判断は、市長がするのか。市長が統合を令和 10 (2028) 年にしようと言った場合に、教育委員会としてはどうするのか。

細山課長 : 最終的な判断は市長となるが、市長は教育委員会の意見を踏まえて判断する。教育委員会として令和 9 (2027) 年度の三校同時統合を提案したことや、今日を含めた 3 回の説明会及びアンケート調査での御意見を市長に伝える。これに加えて、教育委員の方々からの御意見を踏まえ、最終的に判断いただく。

保護者 : 子が支援教室に通っているが、引き続き、きめ細やかに支援してもらえることのことだが、そこでも居辛いという場合にそういういたケアもしてもらえるのか。

また、バスについて、現状遅れて登校している状態だが、東中となると駅から通うといったこともできない距離となる。他のお子さんでもバスに乗り遅れた場合などの通学支援はあるのか。

もう一つ、制服について、自分が中学生の頃にちょうど制服が変わるタイミングだったが、新しい制服はどれがいいかアンケートを取った。同様に、意見を尊重した制服を選ぶよう希望させてもらいたい。

山之内課長 : 教室に居辛いとか、不登校傾向があるとか、そういう児童生徒は全市でも増えており、心配は非常に理解できる。

学校においては、校内の教育支援センター（S S R）で、「○○ルーム」のような形で、教室に居辛いときは、例えばZOOMを繋げてその部屋で授業を受けるとか、その子に応じた学習や場所を提供するようなことをしながら、段階を踏むことで、その子が教室に戻れるという場合もある。

心の相談ということで、スクールカウンセラーや心の教室相談員という者もいるので、気軽に相談できる。また、色々な先生がいるので、自分が一番話しやすいと思う先生に相談するなど、複数の対応の中から選べるような体制を考えている。

細山課長 : スクールバスについては、保護者には現時点で我々が考えるルートと時間を示させてもらった。これに、統合準備委員会の中で肉付けをしていくことになる。特殊事情のある生徒については、対応や工夫ができるかどうか、検討させてもらいたい。

制服については、今回の統合を機に制服を新しくするということは今のところ考えていない。東中学校の制服を基本に考えている。制服や体操服といった運用については、統合準備委員会で意見をいただき、工夫していきたい。

地域住民 : 教育委員会としての意気込みが足りないというか、一歩引いているように感じる。11月の会議でも教育委員会が責任を持って提案していくという覚悟が伝わるようにお願いしたい。

細山課長 : 11月の総合教育会議には、皆様不安のある中でも令和9（2027）年度という提案をさせてもらっている。教育委員会として、しっかりと不安の解消や理解を得るための努力をすることを市長に伝えさせてもらいたい。

地域住民 : 受験に加え、知らない先生の中という状況では、子どもたちが大変だと思う。不安を減らすために、担任でなくてもいいので、五中や北条中の先生が東中に異動できるよう、教育委員会から新潟県の方に働き掛けてもらいたい。

山之内課長 : 統合の時期と受験が重なることの不安は、十分認識しているところである。北条中から東中に、又は五中から東中に知っている教職員を、という要望について、人事は新潟県が決めることではあるが、当然我々としても複数名を東中に配置するよう新潟県教育委員会に求めていく。また、生徒のことを分かっている指導補助員や介助員の移動も考えている。

あわせて、統合になった場合、教職員定数に上乗せされる加配教員の制度があり、これも新潟県教育委員会に強く求めていく。これによって学習、生活面で子どもたちにきめ細やかに対応できると考えている。

保護者 : 9月18日から統合準備委員会を先行して行うということだが、統合準備委員会で出た発言や方針の議事録は開示されるのか。どういった話し合いが行われているのかという点を、逐一確認したいと思っている。失礼を承知で言えば、北条地区から選ばれた委員の方について、私は知らないし、全権委任した覚えもない。委員だけの意見が北条地域の総意というのはどうかと思う。

委員の構成は賛成寄りの方なのか、反対寄りの方なのか分からぬ状態の中で、どういった話し合いが行われるのか、非常に気になるところである。また、何回統合準備委員会が開かれ、その中で出た意見に対し、私たちが意見を出して、汲んでもらえるのか。それとも、それでは收拾が付かなくなるから委員任せになるのか。

細山課長：まず、統合準備委員会は、賛成か反対かという議論をする場ではない。統合に向けて出てくる不安の解消や、統合までに必要な準備について、知恵を出していただく場である。なお、統合準備委員会の委員は、地域の代表が4名、保護者の代表が2名の計6名をそれぞれの地域から出していただく。

また、令和8(2026)年度に日吉小学校と中通小学校が、剣野小学校、鯨波小学校及び米山小学校が統合となるが、この準備委員会の事例を言えば、議事録はホームページも含めて公開はしていない。ただし、準備委員会で決定した事項などは「統合準備委員会だより」という形で教育委員会から随時周知していく。

統合準備委員会の場でそれぞれ代表の方の結論がでないようであれば、当然、地域に戻って地域や保護者の方と相談していただき、その上で次の会で意見していただく形になる。

なお、統合準備委員会は、原則として公開となる。関係する北条中学校地域、東中学校地域、第五中学校地域の皆様からは傍聴可能とさせていただく。

地域住民：統合に関しては、議会でも質問する予定である。今回のアンケートについて、参考にはなるが、項目が3つしかなかった。この項目を決定するに当たり、内部でどのような検討がなされたのか聞かせてもらいたい。本当に関係者の気持ちがこれで掴めると考えているか。もう少し項目があつてしかるべきではなかつたか。もっと気持ちに沿うような中身でないと、中々掴めないのではないか。

それから、9月には三校の協議が始まり、11月には市長が結論を出すという、もう決まったスケジュール感で動いている。もう少し検討が必要だと感じるところである。高柳中と第五中が統合した際や、北条北小と北条南小が統合した際には激論があった。アンケートを結果ありきで進めてしまうと、関係者の気持ちちは分析できないのではないかと思うが、どうか。

細山課長：アンケートを3項目としたのは、今回のアンケートの趣旨が、教育委員会が提案した統合時期に対して、保護者の皆様がどういうお考えなのかを確認するものであったためである。当然、検討の中では、説明や項目を増やした方が良いのではという声もあったが、それよりも今回は設問を提案に対する意見、理由、自由記述に絞って多くの意見を伺う形が良いと判断した。一般的に、紙媒体の記述式であると自由記述欄は「特になし」とするケースも多いが、今回はオンラインでの回答としたため、これだけの御意見や御不安を頂戴することができたと考えている。

この結果だけを見て、総合教育会議の場で決定するということではないが、重要な一つの参考資料であると認識している。

保護者：このアンケートには子どもたちの意見が全く反映されていない。当事者は子ども達であり、統合の話をしても「勝手に決めないでほしい。」と納得してもらえない

い。令和10(2028)年での統合であれば致し方ないと思っていたが、なぜその1年待てないのかという気持ちである。

三校同時での統合という教育委員会の提案も分からなくはないが、こちらとしては、その提案はしてほしくなかった。「望ましい教育環境を提供する」や「子ども達の不安について真摯に受け止める」と書かれているが、今子ども達はストレスや不安を抱えており、統合になつたら学校に行けないかもという状況になっている。受験の時期であり、親としても不安で、日々ストレスを感じている。その1年をどうして待ってもらえないのか。

提案という話であれば、その提案を白紙に戻して予定どおり令和10(2028)年の統合としてほしい。

また、教員を増やすとかスクールカウンセラーが対応するという点も、そこに行ける子は良いが、そこに行けない子もいる。保護者同士の繋がりで、東中に通っている子の良くない話も聞く。3年生のときに統合というのは、本当に迷惑な話である。

細山課長： 貴重な御意見として受け止めさせていただく。1点だけ、統合という大きな問題について、生徒自身に判断させるのは、どうかと思う。地域、保護者、教育委員会の大人がきちんと判断し、生徒の不安が少しでも解消できるように努めるということが我々大人の責任である。これから学校現場ともしっかりと協力して、少しでも生徒が前を向いていけるよう努力していきたい。

地域住民： 学区再編方針の統合基準では、「生徒数が40人未満で推移することが複数年にわたり見込まれる最初の年度に統合できるよう、遅くともその3年前には検討を開始する。」と設定しているが、今回は結果的に2年前となる。自分たちが設定したルールを破ることについてはどう考えているのか。「ルールは守りましょう。」と教えているのに、こういった事例を作っていくと他の統合にも影響する。

細山課長： 目安となる統合基準については、当初令和10(2028)年統合ということだったことから、検討の開始を令和7(2025)年度からとし、5月から説明会を始めさせてもらい、検討を進めている。

ただし、五中の統合確定のことや、生徒数の推移の変化など、環境が変化した中で、今回三校同時を提案させてもらったところである。ルール違反ではないかという指摘だが、検討を進める中で、状況の変化を見ながら必要に応じて見直し、皆様と協議させていただくことを理解いただきたい。

地域住民： 五中の確定ということが状況の変化だと言われたが、五中の統合は既に昨年度の話である。それを基に今年度状況が変わったというのは、誤解を与えるし、説明として良くないと思う。

それから、学校の交流授業を早めに行うことだが、今年度教育委員会で予算があるのか。早くとは、いつごろを指すのか。

山之内課長： 三校の交流については、今年度中に始めたいと考えている。近々三校の校長が集まって、生徒にとってどういう交流が良いのか、どういう準備が必要なのかを

早々に協議する。それが全校になるか、学年になるかについては、分かり次第お知らせしたい。

予算については、確かに確保していないが、そこはスクールバスを活用するなどして、今年度できることをなるべく速やかに行いたい。

地域住民　：　言葉尻を捉えるようで恐縮だが、「できること」ではなく「すべきこと」をしてもらいたい。それに応じて予算も補正を取るくらいの気持ちで臨んでほしい。

細山課長　：　先ほどの教育委員会の覚悟ということも含めて、我々としても責任を持って対応していきたい。今日頂戴した意見は、しっかりと受け止めさせていただく。

田中教育部長　：　中々発言しにくい中、貴重な意見をいただき、感謝申し上げる。11月の総合教育会議を経て、最後は決定となる。教育委員会として、まだまだしっかりと考えていくので、御理解いただきたい。

以上